

## 「児童生徒支援対策プラン」検証改善の流れ

### 1 状況把握・原因分析

1 学期末時点での客観的なデータを基に、いじめ、不登校等の状況と、その原因を分析し、「自校の課題」を明確にする。

### 2 プランの見直し・修正

「重点目標」「達成指標」「重点的取組」「取組指標」を見直し、必要に応じて修正する。特に以下の3つについては見直しをする。修正した場合は、いつの更新情報なのか、いつからの取組かがわかるようにする。

- (1) 「未然防止」についての重点的取組が含まれているか確認する。
- (2) 「未然防止」についての適切な取組指標を設定しているか確認する。
- (3) 取組指標に具体的な数値を設定しているか。

項目	改善が必要な 記入例	改善に向けての視点	改善例
<b>③重点的取組</b>	児童・保護者へのアンケート調査を実施する。	アンケート調査などは、早期発見の取組の一つです。新たないじめや学校に起因する不登校を生まないために、早期発見の取組だけでなく、 <b>未然防止の取組</b> も講じることが大切です。重点目標達成のための、 <b>「未然防止」「早期発見」「解決支援」の3観点</b> からなる重点的取組及びその取組指標を設定します。	児童生徒の良好な人間関係をつくるための取組を日常的に行う。 ※大分県教育委員会「いじめ対策・不登校児童生徒支援ガイド」（平成30年3月）をご参照ください。
<b>④取組指標</b>	日常的に生徒指導の3機能を生かした授業改善に取り組む。	未然防止に向けた校内の課題を明らかにし、「授業中の子どもの表情」といった視点を決めて互見授業を行うなど、 <b>より具体的な取組</b> を講じることが大切です。	「授業中の子どもの表情」を視점에、月1回の互見授業を行い、情報を共有する。
	構成的グループエンカウンターによる人間関係づくりの取組を実施する。	取組の頻度など <b>具体的な数値</b> を設定すると、学校の取組がより明確化されます。	<b>週1回10分間</b> の構成的グループエンカウンターによる人間関係づくりの取組を実施する。

### 3 校内での共通理解

改善したプランについて全教職員で共通理解を行う。

### 4 その他

- ・実態（課題）の把握（1）自校のいじめ・不登校等に関する状況（複数年度）について該当項目の実人数ではなく、**1000人当たり**のいじめ認知件数、不登校児童生徒数に訂正願います。（件数÷児童生徒総数×1000）

※「芯の通った学校組織」推進プラン第3ステージ（令和2年3月 P49）参照